

テスト設計への マインドマップの適用の基本と TAME

(Testing Aid using Mindmap Effectively)

JaSST'09 Tokyo

2009年1月29日

於 目黒雅叙園

池田 暁 (日立情報通信エンジニアリング)

© Akira Ikeda

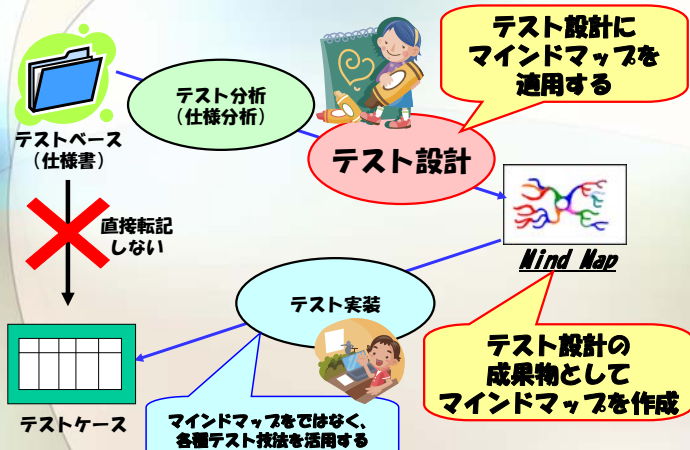
1

【1】 テスト設計への マインドマップ適用の基本

© Akira Ikeda

2

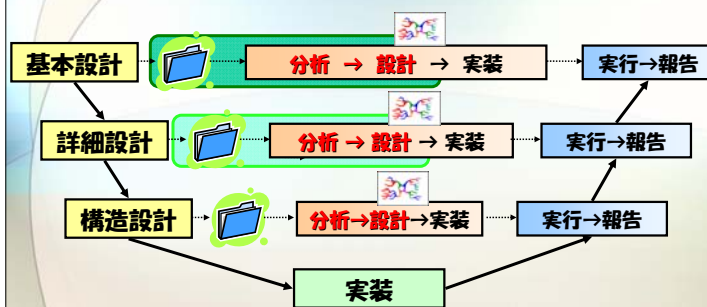
テスト設計へのマインドマップ適用の基本



© Akira Ikeda

3

Vモデルへのマッピングイメージ



マインドマップは各テストレベルに利用できるが、効果や工数に差がある
・システムテスト、せいぜい統合テストまでをターゲット

© Akira Ikeda

4

【2】 マインドマップを中心とした テスト分析、テスト設計メソッド TAMEの概要

© Akira Ikeda

5

マインドマップの二つの利用レベルのイメージ (コンセプト)



6

TAME の (現在の主な) 関心事のひとつ

テストケースの作成を
効率的に効果的にしたい

分析・設計が大事

分析・設計をより担当者目線の「作業段取り」としたい
担当者が段取りを踏めているか、自分自身で作業を確認したい

現場に定着化させるための「しかけ」という視点で考える

どうしたら
「作業段取り」化できる？

作業の内容を自分で
確認するためには？

段取り化するために
作業観点を
明らかにする

中間成果物を作成。
明確に段取りを踏む

作業内容を**見える化**

© Akira Ikeda

7

作業観点を洗い出し、マインドマップでの支援要素を見極める

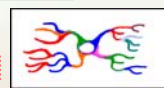
テスト分析 (仕様分析)

テスト設計

<作業観>

- 設計仕様の理解・整理・検討
- テスト設計へのつながりを作る
- 仕様の漏れ抜けの発見と修正のアクション
- テスト戦略へのフィードバック

効果が足りなければ
他のツールも使う



注意
マインドマップはテスト
観点モデリングのツール
としても使うが、分析・
設計が暗黙的に行われる
のを防止するという目的
が先に存在する

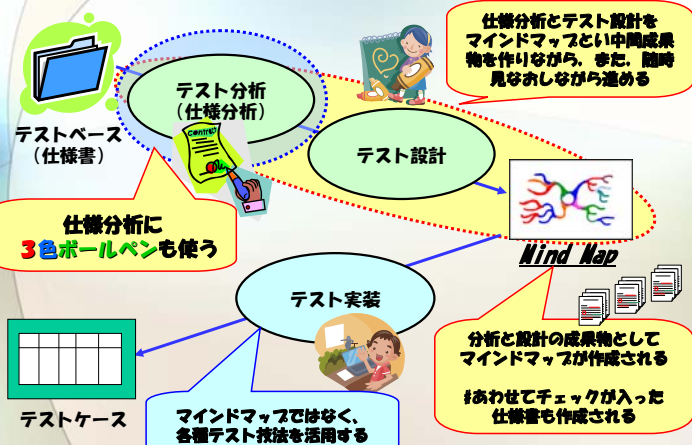
作業段取りを明確に踏ませるために
マインドマップという中間成果物を作成する

見える化された自分の作業内容を
確認しながら作業を進める

© Akira Ikeda

8

設計のみではなく、テスト分析まで拡張した仕掛け



© Akira Ikeda

9

まとめ

- ・ マインドマップは**テクニック**に過ぎず
 - マインドマップを描くこと = テスト設計 ではない！
- ・ テスト分析 と テスト設計 という**段取り**を、
明確に踏ませるためのツールとしてマインドマップを使う
 - テスト設計をいかに品質高く行うかは、次レベルの話として存在している
- ・ **段取り と マインドマップ**を中心に置いて、
様々な道具と組み合わせることも考える
 - 導入したい現場に合わせてカスタマイズできる余地をあえて残す
 - ・ 段取り = フロセス ではない生臭いレベル
 - ・ 誰が実際の作業をやるのかということを最優先に考える
 - 例えば、
 - ・ マインドマップを収束するための記法として西先生のNGTを利用する
 - ・ マインドマップを収束するための記法としてHAYST法のFV表を利用する
 - あくまでも**第一の目的は分析と設計という段取りを踏ませることを意識**

© Akira Ikeda

10